

歯周病と全身疾患について

学校歯科医 村本 定雄

若い人だけではなく世間一般に歯周病は口の病気だから放っておいても歯茎から血が出るくらいで命には関係ないという風に思われているのが現状です。

しかし歯は当たり前のことですが体の一部ですからそこで発生した病気は全身にさまざまな悪影響を及ぼします。



歯周病を起こす原因菌は腫れている歯肉から簡単に血管内に入ります。菌は死滅しても菌の持っている内毒素という毒の影響で血糖値に悪影響を及ぼし糖尿病の原因になります。

またこの刺激により動脈硬化を誘導する物質が血管内に出て血管が詰まってしまい脳梗塞や心筋梗塞を起こしやすくなります。

もともと女性は女性ホルモンの影響で歯周病になりやすいのですが重度の歯周病にかかったままで妊娠すると低体重児出産や早産になりやすいことが知られています。

皆さんの中でも気管に物が詰まってむせることがあると思いますが若いうちは飲み込む力や咳をする力が十分にありますが気管に物が入っても簡単に出すことができます。

しかし年をとってくると筋肉が衰え食べたものが簡単に気管に入ってしまいます。口の中が歯周病菌でいっぱいだったら肺の中にはばい菌が入り肺炎を起こしてしまいます。

これを嚥下性(えんげせい)肺炎といいますが高齢者の死亡原因の一つになっています。

今からブラッシングと食生活を含む正しい生活習慣を身につけ将来の健康の礎を築いてもらえたらと思います。

